



公明党  
はせべ  
**長谷部 竜作**  
りゅうさく  
議員

## 廃校舎の利用計画について

**問** 山武地域では、平成33年の新小学校開校とともに、二つの小学校が廃校になるが、今後の様に廃校舎を利活用していくのか。

**答** 市長 現在のところ、固まった利用計画はありません。

**問** 山武西小学校では、夏祭りを毎年開催しており、地域住民の大切な行事・交流の場でもある。引き続き開催できるような利活用計画を考えると、

ではどうか。

**答** 市長 大木西夏祭りは地域コミュニティの模範であると思っていますが、学校と地域が一体となって成立していると考えていますので、無人になった校舎のもので、夏祭りがうまく機能していくかという点、非常に難しいと思います。新しい小学校を中心としたお祭りには、ただやることを、心から念願を

来場いただきました。市内からも多くの方に来ていただき、木育への関心の高さを伺い知ることが出来ました。

また、市内産サンブスギ材で積み木を製作し、1歳6カ月の幼児に配布しています。今後は新生児に配布する誕生祝い品として、新たな木のおもちゃを開発する予定です。

## 多くの子どもたちが体験出来るよう、木のプールや木製玩具を、市内幼稚園・こども園へ設置、配布してはどうか。



サンブスギを使用した木製玩具

**答** 経済環境部長 サンプルは、とても人気のあるものではありますが、費用も大変かかるものです。財政面を含め、関係部署と協議をしていきたいと考えています。

**問** グリーントワーの補修箇所発見の経緯と、それまでの点検状況はどうか。

**答** 教育部長 4月当初の日常点検により、非常階段が腐食していることが判明しました。さらに、定期的に実施される火災予防のための立入検査が7月に実施され、非常階段の腐食が改修事項として、指摘されました。

**問** 高額の費用をかけて補修するのであれば、積極的に活用していただきたいがどうか。

**答** 教育部長 公園としても、



さんぶの森公園グリーントワー

利用者の増加及び満足度の向上を目標としており、積極的なPR活動に努めていきたいと考えています。また、老朽化も顕著に見られることから、改修計画を策定し、国や県との積極的な協議により、より有利な財源確保のもと、計画を進め、利用者の利便性を高めていきたいと考えています。

## 木育について

**問** 県内初のウッドスタート宣言自治体となったが、木育事業の現状はどうか。

**答** 経済環境部長 東京おもちゃ美術館主催の森のめぐみの子ども博に出展をし、市のPRやサンブスギ製積み木の展示販売、箸づくり体験のワークショップを行って来ました。また、成田国際空港において、木育キャラクターを開催し、大勢の方に

博に出展をし、市のPRやサンブスギ製積み木の展示販売、箸づくり体験のワークショップを行って来ました。また、成田国際空港において、木育キャラクターを開催し、大勢の方に

## さんぶの森公園について

**問** 維持・補修費用はどうか。

**答** 教育部長 維持費は、おおむね年間で4,700万円です。また、平成31年にグリーント

ワー非常階段等の改修費に8,900万円、平成32年にふれあいセンター内文化ホール特定天井耐震化の改修費に4,600万円を予定しています。

た、平成31年にグリーント

## 資産管理経営の在り方について

**問** グリーントワーのような事例を見ると、公共施設の定期的な点検が必要ではないか。

**答** 財政課長 これまでの維持管理は、壊れてから直すという事例が多く見られました。今後の取り組みとしては、

施設の現状を、施設ごとに把握・分析した保全計画の策定、定期点検を実施することにより、性能の劣化を事前に把握するとともに、故障、事故等を未然に防ぐ予防保全に転換を図る必要があると考えています。

今後の取り組みとしては、